



「気が付けば食品ロス削減」

支援係長 阿部 秀人

令和 2. 365 号

【つくし園】

〒791-8041

松山市北吉田町

77-34

TEL(089)951-5331

FAX(089)951-5348

『せへもへチャレンジ』という言葉を知っていますか？まだ食べられるのに捨てられてしまう食品廃棄を減らすための活動らしいです。なぜ、今回『せへもへチャレンジ』について書かせて頂いているかというと、愛媛県内にもある某スーパーマーケットで賞味期限・消費期限がせまった商品に『せへもへチャレンジ』のキャラクターもへにの顔が描かれたシールが貼っており、そのシールを10枚集めてスーパーマーケットに持って行くこと、カプセル玩具の機械が回わせることで私の子どもがいつも興味を示しているからです。私の子どもは、4月に小学生となり、最近では友達と遊ぶことが楽しいようで、買い物に行こうと誘っても遊ぶことを中断させたくなって嫌がることも多くなりました。お菓子を買ってあげる事を餌に、無理やり連れて行くことが多くなっています。スーパーマーケットに着くと、食料品を買ったからその後、お菓子を買いという流れはきちんと守ることが出来、一緒に食料品を見て回るのですが、『せへもへチャレンジ』が貼ってある商品を見つけたら、明らかに食べない物でもカゴに入れようとしています。私が「食べないやろ。」と言ったところ、明らかに「欲しさに頑張るアピール。結局、その商品は説得して棚に戻し、その替わりにシールが貼ってあったお惣菜を購入する」と嬉しそうに言っていました。自宅に帰ると早速、シールを剥いてもへもへチャレンジの台紙に貼り、10枚集めてガチャが回せた時は、景品がお菓子で喜んでいました。

『せへもへチャレンジ』が始まって約30万食の食品廃棄削減に繋がっているそうです。子供にとっては食品廃棄削減を考えての行動ではありませんが、楽しみながら気が付けば自然と、食品廃棄削減に繋がっている『せへもへチャレンジ』。買い物に行った際、微力ではありますがありますが、子供が楽しみながら食品廃棄削減に繋がるこの活動を応援出来るように、『せへもへチャレンジ』が貼った商品を手にとりたいと思います。



11月の開園日

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | | | | | |

・21日(土)は開園日になります。

11月の行事予定

- ・12日(木)・・・インフルエンザ予防接種(希望者)
- ・13日(金)・・・いもたきパーティー
- ・20日(金)・・・誕生会
- ・27日(金)・・・津波避難訓練
- ・30日(月)・・・月末大掃除



消火訓練をしました

10月9日(金)につくし園、すぎな園の職員で消火訓練を行いました。毎年法人内で消防署の方の立ち会いのもと消火訓練を行っていますが、今回はコロナウイルスの影響も加味して消防署の立ち会いは無く、職員のみで訓練を行いました。消防署から貸していただいた水消火器を使って防災担当の職員指導のもと、火災発見から初期消火までの流れをすべての職員が体験しました。今後いつ火災が起きたとしてもすべての職員が対応できるよう、年に2回消火訓練を行っていきます。



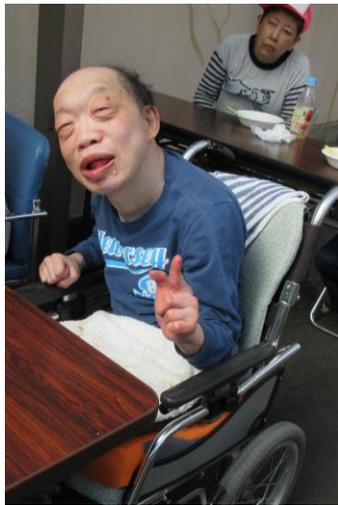
文責： 小出旺次郎 小松宴江



キッチンカーのピザを食べました



10月23日（金）につくし園にキッチンカーのピザ屋さん「MONZ」さんに来て頂き、利用者の方達と園庭で本格石窯焼のピザを頂きました。前日の雨がうそのような快晴で秋にしては暖かい陽気の中キッチンカーを呼ぶことができ、園庭に表れいい匂いを漂わせながらピザの準備をする車に利用者の方々は興味深々。作業の手を止めて「あれはなんだ!？」といった様子で釘付けでした。



食事が始まると石窯で焼いた色々な種類のピザが次々と運ばれ皆さん「おいしい!おいしい!」と言って大満足されていました。利用者の方の中にはピザを初めて食べる方もおられ、普段の食事の様子とは違った反応を見ることもでき、今回のキッチンカーでの食事は支援者にとっても利用者の方の新たな一面が見られる貴重な体験となりました。



「MONZ」ピザさん、堀之内や道の駅などで販売されています。緑のキッチンカーを見かけたら是非ご賞味ください。

支援員会でこんなことをしています

つくし園では、月に一回程度支援員会を開いています。今回は「利用者の方の疑似体験を通して介助を見直そう。」というテーマでした。歯が少ない方の咀嚼、嚥下を知る為に刻み食を実際に食べてみたり、車椅子に乗ってスロープの昇降をしたりしました。どうすれば快適な走行ができるのか身をもって知る事ができました。また送迎車での乗降の時、利用者の方の御負担にならないよう統一した介助ができるように確認しました。

これからも定期的に行い、介助について学んでいきたいと思っております。



文責： 小出旺次郎 小松宴江